

山歩No.88 梅雨空のテイカカズラに想い寄せ



～愛知県瀬戸市海上の森～

梅雨入り直後の海上の森へ。この時季、高木に絡みつくジャスミンに似た白い蔓花がそこかしこに見られる。風車のように少し捻じれた落花が山道に散っている上を見上げれば、木にまとわりついた蔓に白い小花が…。花の名はテイカカズラ。名の由来は式子内親王を愛した藤原定家が、死後も彼女を忘れられず、ついに定家葛に生まれ変わって彼女の墓にからみついたという伝説（謡曲「定家」）による。

式子内親王と云えば、小倉百人一首の中で一人後ろ向きに座る姿が印象的で、古典の時間に記憶させられた歌は片隅にも残っていないがその姿は、すぐに浮かんだ。因みに歌は「玉のをよたえなはたえねなからへは 忍ぶることのよはりもそする」（新古今和歌集 / 小倉百人一首）。17歳当時には無理だったが、今なら忍ぶ恋に心惹かれる。

こんな思いを抱きつつ歩けば、梅雨空もまた楽し。

2019年6月8日掲載（2019年6月8日撮影）